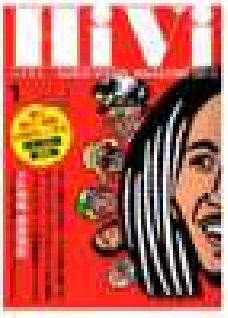
FURUTECH



Review

HiVi

2013 JANUARY - Japan

271 point

心地	中身	音質
87	93	91

ADL **CRUISE** ¥39,900 **Best 1**

Profile

1/ハンドリーな設計のポータブル機だが、充電を兼ねた USB接続でキャンセルバッテリー駆動にも対応する

Impression

開放的なデザインで、カーボンファイバー仕様の外観が特徴だ。ポータブル/デスクトップで使え、連続使用時間も長いし、やや低域が弱いが、クッと低域感と音楽感がある。ピュアで、実力デヴィルバッハ(TZ20)をバランスよく再現する。エフェクト音のきらびやかさも好ましい。ボールーテッカートニーはヴォーカルがスーっと前に出てくる印象。開放のピアノも良い。低域再現がナチュラルだ。演奏終はタッチの強弱が明瞭に再現され、情緒的なムードもいい。（小原）

ヴォーカルが音源の中心に鎮座し、はっきりと主張している。特にエスペランサ・ヴァンがバンドを従えて、生き生きと行動しているかのようだ。伴奏コントラストは、とにかくフレッシュで解像度が高い。気持ちしのぶるが持ち味だ。低音、もうすこし低域の厚みが欲しいとも感じた。以前このモデルを使用した際とは、やや異なる印象を受けた。使用するイヤフォンによって音色が大きく変化することを再認識したのだった。（中林）

ドーナンを用いた実験をアクセントにしたアールを使ったデザインは、好みの分かれるところだが、作りはしっかりしていて、特殊さはない。筐体の影響なのか、低域は締り気味に感じられるものの、巻の質感はきめ細かく、繊細、天井の高さ、奥行きも、空間描写は中庸。オーケストラの再生ではもっと開放感が欲しいと感じた。シャンティは声のニュアンスが生々しく、ギターの響きも密度で、演奏者の手の動きをイメージしやすい。（藤原）